川柳コンテスト　入賞作品

みんなの一句

最優秀賞

麻痺チェック　ぎゅっと握る手　ほっとする

作者名：にんていだもの

場面・エピソード

神経症状を観察する際に、思った以上に強く握られると痛いのですが、同時に力が強いことに安心します。

優秀賞

やっと出た　言葉が「焼きそば」　妻涙

作者名：あきこ

場面・エピソード

失語症の患者さんが久しぶりに出た言葉が本人の好きな「焼きそば」で妻が嬉し涙を流した場面です。

優秀賞

「帰りまーす」 いやいや、ダメです いま夜中

作者名：脳神経Love♡

場面・エピソード

昼間は覚醒も悪くてずっと寝てた患者さんが、夜中に急に「帰ります」と言い出します。昼間にお願いしますと言いたくなる瞬間です。

特別賞（脳神経ナースの目が光るで賞）

GCS 満点だけど 何か変

作者名：10年の集大成

場面・エピソード

看護師は、24時間患者さんのそばにいることができる唯一の医療従事者です。だからこそ、GCSは満点でも、表情や言動などから「何か変」と感じる瞬間があります。数値には表れないわずかな変化を見逃さず、チームで共有して速やかな対応につなげることは、看護師ならではの大切な役割だと感じています。

ご応募ありがとうございました

第53回日本脳神経看護学会学術集会

川柳コンテスト　応募作品

「年だから」その物忘れは脳疾患

作者名：加藤富士枝

場面・エピソード

病気の可能性が強いため、受信をすすめるが、本人は病気だと認めたがらない。

コール鳴り　合わせる対応　気切や失語

作者名：しらすおにぎり

場面・エピソード

他の科のように『はいどうされましたか？』では訴えられない患者さんがたくさんおり、『伺います！』で駆けつけるのプロだと思います。

あたたかい　瞳と言葉と　あなたの手

作者名：トモトモ

場面・エピソード

自分自身が患者として入院していた時に医療従事者の方に抱いていた感情です。

兄、そこに進んじゃだめよ、危険だよ

作者名：ご隠居

場面・エピソード

脳神経外科看護において瞳孔の観察は不可欠です。特に瞳孔不同（アニソコリア：通称「アニソコ」は脳ヘルニアの危険なサイン。脳神経外科や救急の臨床にいた看護師であれば必ず経験する臨床症状だと思います。

ベルトOFF　チャレンジ中に　鳴るセンサー

作者名：ちぇり～

場面・エピソード

身体抑制の実施が厳しくなっている昨今、車椅子のベルトをOFFするためにチェアセンサーを使用することがあるのです。そんな中、離臀すると鳴るセンサーがベッドサイドやトイレから聞こえてきて、焦る場面が多々あるときの様子を思い浮かべながら作ったものです。

遠くから　交わすグッドで　励み合う

作者名：いいゆ

場面・エピソード

リハビリが思うように進まず涙を浮かべていた患者さんと、膝を付き合わせて思いを聴きました。語られたのは、「家に帰り、受験勉強を頑張る息子を支える母でありたい」という願いでした。その願いを大切にしながら、小さな目標を一緒に考え、歩みを積み重ねました。翌日、昨日よりも力強く歩く姿に、遠くからお互いにグッドサインを交わしました。患者さんと看護師が互いに励まし合い、希望を分かち合えた瞬間でした。

ご応募ありがとうございました

第53回日本脳神経看護学会学術集会

川柳コンテスト　応募作品

ちょ待てよ　キムタク言っても　止められない

作者名：てっぺー

場面・エピソード

脳機能の変化で衝動が抑えられず、誰が止めても行動してしまう患者さんの特徴を示しました。1勤務に1回以上の頻度で遭遇するほど日常的にみられる現象です。患者さんの行動を予測し、早期介入の重要性を伝える内容にしました。

ニコニコと　同じ質問　何回目？

作者名：ともとも

場面・エピソード

夜勤の忙しい時に、同じ質問、私も同じ返答、また同じ反応の繰り返し。イライラしてしまいそうになるけれど、毎回、「え！そうなの！？」と、初めて聞くような驚く様子に、イライラを忘れて優しい気持ちになります。

日付け問い　私も間違い　笑い合う日々

作者名：しらすおにぎり

場面・エピソード

見当識を確認しておきながら、何日だっけ、となって患者さんと一緒に笑ってしまうことがよくあります。

夜勤明け　立ち去る前も　笑顔から

作者名：トモトモ

場面・エピソード

自身がLPシャント造設後の退院日の朝に、当直明けの看護師さんが帰られる前に病室を覗いて声を掛けて下さいました。その時の爽やかな笑顔に絶大なパワーを頂き、自分も復職したらそうありたいと思いました。

目で確認、今日の出欠一人だけ

作者名：ご隠居

場面・エピソード

脳神経外科看護において目の観察は必要不可欠です。眼球の位置や瞳孔の観察で、画像診断前に左右や病巣を予測することが可能です。今日（橋）の出欠（出血）では瞳孔が針先の大きさ（一人（ピン）ホール）になるのが特徴です。

トイレ行った？　うん、と頷く　家族かな

作者名：ちぇり～

場面・エピソード

尿意や便意はわかるけど、移乗やトイレ動作に介助が必要な患者さん。そういえば今日一度もトイレに誘導してないな、と思い訪室するとご家族が面会されている。排泄の有無を確認すると「さっき連れていきました。」と…。いやいや、入院の説明の時に、許可があるまではやらないでと伝えてるはず…。転倒とかしたらどうするの？という事例です。

ご応募ありがとうございました

第53回日本脳神経看護学会学術集会

川柳コンテスト　応募作品

洗う手に　そっと寄り添う　看護の手

作者名：あきこ

場面・エピソード

麻痺のある患者さんがトイレの後、麻痺の手を洗わなくていいという場面で大事な手を一緒に洗いましょうと看護師が手を添えて一緒に洗う場面です。

「できない」が「できた」に変わるその笑顔

作者名：10年の集大成

場面・エピソード

脳神経疾患では、意識障害や麻痺などにより、それまで当たり前にできていたことが難しくなる場合があります。患者さんの意思を尊重しながら、その人が持つ力を引き出す看護ケアを重ね、少しずつ「できた」を取り戻していく。その瞬間に生まれる患者さんの笑顔と喜びを、看護師も一緒に分かち合う場面を表現しました。

今寝るの？ 夜中に喋って 医師に無言

作者名：脳神経Love♡

場面・エピソード

夜中に覚醒し、たくさんお話してくれる患者さん。夜中に喋りすぎて疲れるのか、主治医の回診時には爆睡、お願い、私が嘘ついてるみたいですから、今喋ってくださいと言いたくなる瞬間です。

駆けつける　ご飯まだかと　食べたのに

作者名：ともとも

場面・エピソード

ナースコールで駆けつけたら、「朝ごはんまだ？」と質問あり、もう食べましたよと説明すると、「そうか」と納得され、他の仕事の手をとめて駆けつけたのに、ガックリするエピソードです。

久々の　プリンはどう？　と皆の顔寄る

作者名：りんちゃん

場面・エピソード

嚥下障害のある患者さんが、ようやく大好きなプリン摂取の許可が出ました。家族に言語療法士、看護師皆が患者さんを取り囲み、皆が「美味しい？」と皆が感想を待っている時の様子です。

90代　跛行が改善　まだ若い

作者名：しらすおにぎり

場面・エピソード

後遺症のリハビリでは、年齢的に諦めなければいけないことも多いですが、一概にそうではないと思うこともたくさんあります。

ご応募ありがとうございました

第53回日本脳神経看護学会学術集会

川柳コンテスト　応募作品

自我喪失　闇にもヒカリ　白衣姿

作者名：トモトモ

場面・エピソード

記憶障害がひどかった上、コロナ渦で家族にも面会できなかったので、寄り添ってくださる看護師の方々が「光」でした。その時の句です。

格さんや、白き光じゃ急ぎましょ

作者名：ご隠居

場面・エピソード

MRIの拡散強調画像（DWI）で白く光って写し出されるのは、おのずと知れた脳梗塞の急性期です。当然看護師の動きはあわただしくなります。

さっきまで　部屋にいたはず　なぜここに

作者名：あきこ

場面・エピソード

夜間、見回りに行ったら、患者がベッドにおらず、探したら他のところにいて、ヒヤリとした場面です。

言葉なく　まばたきひとつ　ありがとう

作者名：10年の集大成

場面・エピソード

脳神経疾患では、意識障害や失語症、構音障害などにより、言葉で思いを伝えることが難しい患者さんがいます。それでも、まばたきや視線、表情、わずかな手の動きから気持ちが伝わり、言葉を交わさなくても分かり合えたように感じる瞬間があります。患者さんと看護師の心が通じ合う、脳神経看護でよく経験する温かな場面を表現しました。

お互いに　心おだやか　抑肝散

作者名：ともとも

場面・エピソード

易怒性のある患者さんがよく内服している抑肝散、漢方で苦いはずなのになぜか拒薬せずに内服してくれて、効果もあり。抑肝散のおかげで、患者さんもナースも心がおだやかになります。

わあ凄い！　皆に褒められ　得意顔

作者名：りんちゃん

場面・エピソード

麻痺のある患者さん。リハビリを頑張って立てるようになりました。理学療法士や看護師みんなに褒められて、恥ずかしそうにしながらも、ちょっと得意そうな表情が忘れられません。

ご応募ありがとうございました

第53回日本脳神経看護学会学術集会